

編集後記

この度、初めて歯学部ニュースの編集に携わる機会を頂きました。至らないところも多かったかと思いますが、快く原稿依頼を引き受けて頂いた教職員および学生の皆様には、本当に感謝しています。編集業務を通じて、学生の活動やこれまでお話ししたことになった先生方のご活躍など、歯学部内の多岐にわたる活動を実感しました。歯学部ニュースがこれからも、歯学部の更なる発展と活躍を報告する場として役立って欲しいと願います。

生体歯科補綴学分野 川崎真依子

歯学部ニュースは、4年前に1度原稿を執筆させていただきました。この度は編集委員としてお仕事に関わることができ、あらためて歯学部の皆様の幅広い分野での活躍を拝見し感銘を受けるとともに、良い刺激を頂きました。お忙しい中、原稿の執筆を快くお引き受け下さった皆様に深く御礼申し上げます。本号が、お読みいただく多くの皆様の活力にならんことを祈っております。

摂食嚥下リハビリテーション学分野 中村 由紀

今回、初めて本誌編集委員を担当しましたが、外から「歯学部ニュース」を読むのと中で編集の従事するのでは大きく違うことを痛感しました。原稿依頼について協力いただいた先生方、学生さん、編集委員の皆様、至らない所多々ありましたが、編集活動に携わらせていただき、大変ありがとうございました。

顎顔面放射線学分野 新國 農

この度はじめて歯学部ニュース編集委員を担当させていただきました。普段、業務ではいつも何かしらの締め切りに追われていますが、逆の立場になって気づくことが多々あり、思いがけず自らの姿勢を見直す機会にもなりました。年末年始のあわただしい時期に、快く記事の執筆を引き受けてくださった皆様方に感謝申し上げます。

口腔病理学分野 山崎 学

今回初めて歯学部ニュース編集委員を務めさせて頂くこととなり、まず歯学部ニュースを過去のものから読み返してみることを私の最初の仕事として始めてみました。これまで何気なく読んでいた程度であった歯学部ニュースでしたが、それぞれの号1冊の中にはその時代時代の歯学部の姿が生き生きと映し出されており、「歯学部ニュース」というものの存在の大事さを改めて実感した次第です。本号もこれまでの編集内容を踏襲したオーソドックスな構成になってはおりますが、学生活動、教育、研究、臨床といった数多くの御寄稿から、生き生きとした“新潟大学歯学部の今”をこの号からも読者の皆様には感じとって頂ければ幸いに存じます。最後になりましたが、ご多忙の中、急な御依頼にも関わらず原稿の執筆を御快諾、御寄稿頂きました教職員および学生の皆様、写真のご提供を下さいました林孝文教授、4名の編集委員の先生方、(株)ウィザップ本間様、皆様に厚く御礼申し上げます。

歯科麻酔科 田中 裕